第16回佐賀県食育賞受賞者の概要

【ボランティア部門】

受賞者名	活動概要
 一般社団法人かがみこどもプラザ （唐津市）	○先進的な「食」に係る事業を実施している。 ・「かがみこども食堂 in 鏡公民館」 家庭的な料理を提供し食育学習等を行う ・「あさごパン」 朝食抜きで登校している児童に対してパンとスープを提供する ・「子ども定期便」 孤食や自立した生活が難しい家庭へ訪問支援をし、基本的な生活習慣の習得や一緒に遊び学びを行っている など 他の地域にも波及しているため、複数の自治体から視察やメディアにも多く取り上げられている。 ○「楽しい・見つける・食べる」を大切に活動されているため、子どもたちは感謝の気持ちと素直な心を養い、お腹も心も頭も満たされている。 ○これまで24年間にわたって継続してきた活動は、近隣の小中高校をはじめ、町内会や民生委員児童委員と密に連携し、地域に強く根付いている。

【教育関係者・事業者部門】

受賞者名	活動概要
 幸松　伝司 （伊万里市）	○長年、市民住民に対しての継続的な食育活動、教育機関とも連携し、多岐にわたる積極的な食育活動を行っている。 ・田植え体験・稲刈り体験・芋植え付けと収穫体験（小学生） ・黒米料理と田舎料理体験（保育園児、修学旅行生） ・黒米やタマネギの皮などを使った草木染体験（保育園児・小中高生・一般） ・黒米を使った加工品の研究、開発（伊万里実業高校） など ○これらの活動を通して、子どもたちは豊かな心を育んでいる。また、子どもたちの食育活動で母親の意識の中でも動機付けに繋がっており、波及効果も大きい。 ○幸松氏は個人での食育活動の他、NPO法人伊万里はちがめプランに所属し、地域を挙げて伊万里市川内野地区の安全安心な食づくりを推進している。

【教育関係者・事業者部門】

受賞者名	活動概要
 黒田　香織 （佐賀市）	○佐賀の食材を教材とした食育で子どもの心身の発達、健康促進に寄与し、食文化の知識・技術を次世代へ伝承する活動を実施されている。 ・「青空キッチン」 　幼児小学生を対象に、行事食や歴史に触れ、食を題材に読み書きや創造の時間を設けている。 ・「COMPASS」 　一汁一菜を基本に、食への関心や生活力をつけることを目的としたシングルファミリーの子ども対象の食育教室。西九州大学生のボランティア派遣を受け入れ、数百名の学生に食を通じた子どもの関わり方について指導を続けている。 ・「おむすびころりん」 　未就学児親子を対象に佐賀県産（米・海苔・塩）を使ったおむすび作り体験 など ○これらの活動を通じて、親子で料理する時間や食卓での会話が増えるなどの、家族のふれあいの時間が増加。また、自分たちが普段口にしている野菜を自ら家庭菜園で育てるなど、食材に対しての意識の高揚につながっている。 ○活動から 5 年、生産者、団体、学校と協力しながら食育活動ができており、これまで以上に「継続してほしい」「応援している」という声が多く寄せられている。

【教育関係者・事業者部門】

受賞者名	活動概要
 佐賀県立伊万里実業高等学校 フードプロジェクト部 （伊万里市）	○平成 27 年度より、地域農産物を使った商品開発に取り組んでおり、地産地消の推進、規格外農産物の有効活用を進めている。 ○近年食品ロス問題が深刻化していることから、「食品ロス問題に地域一丸となって取り組む仕組み作り」と「地域未来を担う子どもたちへの食育活動」に取り組んでいる。 ・フードドライブ 　集まった食品は宅食便として、ひとり親世帯家庭や児童クラブへ届けている。また、食品の一部を活用したお菓子作り教室を開催している。 ・ふるさと納税返礼品 　地域の食材を使った手作りお菓子がふるさと納税返礼品として採用され、全国各地へ届けられている。 など ○これらの取組は他の地域にも波及し、令和 3 年 12 月には農林水産省と内閣官房が選ぶ農山漁村活性化の優良事例として表彰された。

【教育関係者・事業者部門】

受賞者名	活動概要
  社会福祉法人旭福祉会 日新こども園 （佐賀市）	○地域のいろいろな知識や経験、特技を持つ方たちとの連携により独自の食育活動を行っている。 ・筍体験 ・夏野菜の栽培 ・ごまの栽培 ・おにぎりづくり ・梅ジュース梅ジャムづくり ・芋堀り、石焼ピザづくり など ○これらの活動を通して子どもたちは食への興味・関心が一段と高まっている。また、体験することでチャレンジ精神が身につき、取組に対しての活動意欲が高い。 ○収穫された野菜を近隣の住民（高齢世帯）に配布するなど、地域との交流も欠かさず行われている。そのため、一人で過ごすご高齢の方たちへ笑顔や元気を届けるきっかけづくりになっている。